

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	西蒲原土地改良区本区事務所	
建設地	新潟県新潟市西蒲区巻甲5481番地	
用途地域	第二種住居地域、22条規制地域	
建物用途	事務所	
竣工年	2020年4月 竣工	
敷地面積	6,234.16 m ²	
建築面積	2,506.23 m ²	
延床面積	2,995.24 m ²	
階数	地上2F	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2020年10月5日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{65.9}{42.2} = 1.5$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.5		バリアフリー計画	Q2.1.1.3 3.0
			維持管理	Q2.1.3 4.5
			設備の更新性	Q2.3.3 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	3.2		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1 3.0
			信頼性	Q2.2.4 3.4
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1 2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1 5.0
			自然エネルギー利用	LR1.2 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.3		節水	LR2.1.1 1.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4 4.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6 5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.5		生物環境の保全と創出	Q3.1 3.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2 2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	4.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2 5.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1 3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- バリアフリー対応、将来の維持管理に配慮した構造計画。
- 断熱材の適材適所の使用。
- リサイクル資材を2品目用いている。躯体と仕上材が容易に分別可能。
- 建物の外観の形状や色彩を街並みに調和させている。前庭の造園のコンセプトは西蒲原土地改良区の歴史を表現とした造り。

CASBEE新潟

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	西蒲原土地改良区本区事務所	階数	地上2F
建設地	新潟県新潟市西蒲区巻甲5481番地	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、22条規制地域	平均居住人員	0人
地域区分	5地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年4月 竣工	評価の実施日	2020年10月5日
敷地面積	6,234 m ²	作成者	齋藤杏華
建築面積	2,506 m ²	確認日	2020年10月6日
延床面積	2,995 m ²	確認者	近山富貴



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 81%
③上記+②以外の 81%
④上記+ 81%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.6

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	西蒲原原リング「RING」輪は、R「リノベーション(手を加えて良くすること、修復、再生)+ING(進行形)西蒲原土地改良区のこれからの100年は創造する拠点として地域の人々が愛着と誇りを育む開かれた場づくり、歴史・環境・風景そして人々をつなぐ拠点、地形的特徴である輪中地帯の要として改築整備を行う。	その他 現在地での建て替えとし、既存建物(車庫)の有効利用、原風景の保存(齋尾貞一元理事長像の保存)を行い、慣れ親しんだ風景、環境を損なうことなく改築整備することに配慮した。
Q1 室内環境	事務機器のOA化により発熱密度が増加しており、事務面積が858m ² と広く、在室者の室内環境に対する要求も高度化していることから空調負荷の偏在化や繊細に制御出来るよう細分化したダクト方式を採用した。	Q2 サービス性能 事務室の天井高が3.0mあり、また北面と南面に窓があるため、在室者が十分な屋外の情報を得られるようになっている。
LR1 エネルギー	パッシブな低層型事務所とし、軒や庇を設けることにより機械に頼りすぎない建築とした。	Q3 室外環境(敷地内) 前庭の造園コンセプトは西蒲原土地改良区の歴史(小規模園場～大区園場整備と治水整備を行ってきた)を表現した造りとし、四季折々の花が鑑賞できる樹木を植栽しており、外観も西蒲原の街並みに調和するようにした。
	LR2 資源・マテリアル リサイクル資材を使用し、再利用できるユニットを用いている。また、躯体と仕上材が容易に分別可能となっている。	LR3 敷地外環境 地域の気象条件を考慮した建物配置。現事務所位置での建替えであるが、機能の関係性を考慮したわかりやすい配置計画

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される